

東京大学大学院人文社会系研究科  
次世代人文社会学育成プログラムによる海外派遣  
帰国報告

最終報告提出日： 2011年9月22日

派遣先の基本情報：

- 氏名： 荒川仁美 (ARAKAWA Hitomi)
- 所属先： 美術史学専攻 修士2年
- 派遣形態： 個人派遣

研究課題名： レヴォワール中世美術品コレクション、レヴォワール絵画作品、関連史料調査

派遣先での活動：

(1)派遣先の基本情報：

- 国名： フランス
- 都市名（研究機関）：  
パリ（INHA、フランス国立図書館、ルーヴル美術館資料室、フランス国立美術館連盟資料室、国立史料館、  
オルセー美術館資料室、プチ・パレ美術館資料室、他多数の美術館）  
リヨン（リヨン美術館資料室、リヨンを市史料館、リヨンを市立図書館史料室）  
ポー（ポー城博物館資料室）※滞在はなし

(2)派遣期間： 2011年7月15日出発、2011年9月10日帰国、総日数58日間

主な研究成果

(1)当初の計画の概要：

被派遣者の修士論文『19世紀前半のフランス絵画と中世懐古趣味—レヴォワールの絵画とルーヴル美術館中世コレクション（La peinture française à la première moitié du XIX<sup>e</sup> siècle et le goût du Moyen Age -La Collection Révoil au Musée du Louvre）』執筆のため、フランスの美術館（ルーヴル美術館、リヨン美術館、ルーアン美術館他）及び図書館・資料保管機関（フランス国立図書館、INHA、リヨンを市立図書館）に赴き、「レヴォワール・コレクション」の実見、レヴォワールの絵画作品の実見、コレクション及び絵画作品に関連した史料の調査を行う。

(2)実際に達成された成果：

執筆予定の修士論文のテーマの主軸（中世・過去懐古趣味）は変えず、調査対象と取り扱い史料に若干の変更・増補を行った。変更後の論文題目は『王政復古期のパリ・サロンにおけるフランス王の表象—レヴォワール作「アンリ四世と子供たち」（1817年サロン）を中心に（La représentation du roi de la France aux salons de Paris sous la Restauration —“Henri IV et ses enfants”, par Pierre Révoil, Salon de 1817.）』となる。

当初、ルーヴル美術館所蔵「旧レヴォワール・コレクション」を研究・論文の主軸とする予定であったが、コレクションの実見と関連した史料（主に当時の作品目録）の入手を現地で行った上で、調査の中心を収集者・画家であるピーエル・レヴォワールがサロンに展示した絵画作品へと変更・展開した。新しく対象とした絵画作品『アンリ四世と子供たち』（1817年パリのサロンで展示、ポー城博物館所蔵）そのものが興味深いテーマを持っていること、この作品に関する興味深い史料を現地で多く発見できたことが変更の主な理由である。

具体的には、ポー城博物館における『アンリ四世と子供たち』の実見、同博物館学芸員の協力を得た他画家による同一テーマの作品情報の入手、当時の新聞・雑誌記事におけるこの作品に対するコメントの調査、アンリ四世についての当時の書籍・寓話の調査、レヴォワールのコレクションの入手リスト（ルーヴル美術館作成）及び彼の所蔵した貴重古書の売却リストの調査を行った。これらをもとに『アンリ四世と子供たち』の制作過程・背景の考察が可能となったことが今回の海外派遣調査における被派遣者の研究成果である。

### (3)今後の研究展望：

今回の調査を踏まえ、今後は広く「王政復古下のサロン（1814年、1817年、1824年、1827年）におけるフランス史の英雄の表象」というテーマを研究の主軸としたい。大革命から政治的主導権を一時取り戻したブルボン王朝という存在を背景に、フランスの英雄たちを描いた絵画作品が流行する。これらの作品群を扱った研究はフランス、日本いずれにおいてもわずかであり、1980年代の成果以降未だ更新されていない。これらの絵画作品の価値の見直しから起こった、消失していたと思われる作品の再発見や未調査の史料の存在は、このテーマの研究において新たな成果を生むことが期待される。